

うした絶対尊厳性は首相でも乞食でも、欧米人でも野蛮人でも、全く同じで、しかも生まれついでから死ぬまで変わりません。

細胞の少ない臓器、たとえば、角膜とか筋膜とか骨とかは、これはかなり自由に移植できます。特異性が少ないのですね。細胞の少ない、線維ばかりの組織には、いま申しましたような尊厳性が乏しいものです。皮膚の移植が昔から行なわれますが、この皮膚にしてからが、もうすでに他人のものは受け入れません。植えるなら、自分の皮膚をもって来る以外はありません。たとえば夫婦であろうと、兄弟姉妹であろうと、親子であろうと、他人の皮膚は自分のものと全く異なっています。ただ、一卵性の双生児、つまりフタゴですと、片割れのものをもらって、もう一方の片割れに移しかえることができます。こういう方面で一番注目されるのが、腎臓の移植です。これは細胞の多い組織ですから、各人全く特異的で、決して他人から譲りうけたりはできぬ尊厳なものです。しかし、一卵性の双生児同志なら、移植ができます。人間同志で、腎臓の移しかえを行なったのは1955年が初めてで、それから1961年の終わりまでの7年間に、一卵性双生児同志で腎臓を移植して成功したものが、18組報告されています。これは顔かたち、性格、こまかい血液型が全くピタリー

致したフタゴです。皮膚をうえてみて適合することをたしかめる。その上で、レントゲンをかけるとか、コーチゾンを与えるとか、十分に準備して、健康なフタゴの方から腎臓をひとつもらい、病気の方のフタゴに植えます。血管は血管へ輸尿管は排泄に便利なところへつなぎます。こうして数週から数カ月して、よくついたことをたしかめて、病気の腎臓を取り去ってしまいます。病気の、個有の腎臓が残っていると、もらったような腎臓もおちてしまいます。病気の腎臓といっても、糸球体腎炎の末期というような場合は、移植に失敗しやすい。腎盂腎炎とか腎嚢胞とかが成功しやすいものです。また、よほど腎臓が悪くなって、尿毒症という状態に陥ったフタゴの場合に、移植が成功する傾きがあります。いいかえすと、一卵性双生児、ウリフタツと申ししましても、腎臓移植に成功するのは、なかなかもってむずかしいものであります。いわんや、二卵性の双生児では、もう移植は成功しません。このように、ひとりひとりの個体の特異性は、絶対的に、きわめて強烈に守られています。天は人の上に人をつくらぬそうです。医学の方から見ると、神は生物に絶対特異性、絶対尊厳性をつくりたもうたということになります。

(前群馬大学教授)

<学会 News>

第3回全国公衆衛生看護学会、10月に開催

第2回を東京で一昨年開いた公衆衛生看護学会は、昨年地区別学会をもち今年は全国公衆衛生看護学会として次のように大綱がきまった。

日時 昭和38年10月13日(日)同14日(月)

場所 神奈川県立音楽堂、青少年センター

第1日は午前9時30分～12時に2分科会にわかれ「保健婦の働きかたをめぐって」(仮題)「妊婦の保健指導の問題点」の2シンポジウム。午後は4時まで、2会場4分科会の研究発表が予定されている。

第2日は午前9時から学会式典、そのあと昼まで宿題報告が発表される。これは協会助成金によるもので、三重・岡山・熊本からの3題が予定されている。午後は講演「成人病のリハビリテーション」(講師未定)があつて

会を終る。なお、会期2日を通じて各種自由集会がもたれるようである。

7月に開かれる昭和38年度国保 保健婦中央講習会

例年開かれていた国保保健婦中央講習会が7月25日から1週間31日まで、昨年と同じ東京の社会保険研修所で、全国から100名の参加者により開かれる。昨年同様共同宿泊で実のある講習会が期待されているが、今年の主たるテーマは、一つは「ケースワークを中心とした調査方法の仕方」、これは講義と体験発表が行なわれたあとパネルディスカッションをもって内容を深める形で行なわれる予定。いま一つは、ケースを指導して行く上の基礎的なものとして最近の疾病の知識・看護の要点ということになっている。